

東日本大震災から4年半、日本ユニセフ協会と岩手県ユニセフ協会は連携し緊急・復興支援に取り組んできました。

10月10日、第14回いわてユニセフのつどい2015をプラザおでってで100名の参加で開催しました。「3.11 私たちはわすれない・子どもたちにしあわせな未来を」子どもたちにやさしい復興をめざして、オープニングは、大槌町キッズコーラスあぐどまめ&キャラホール少年少女合唱団の合唱、2011年から5年間、沿岸と内陸の交流を続けてきました。

～ 合唱でつながる子どもたち ～



つどいは、岩手県ユニセフ協会専務理事内澤祥子さんの挨拶の後、DVD「第3回国連防災世界会議」を鑑賞し、続いて（公財）日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部 加藤カヨさんによる東日本大震災緊急復興支援報告でした。

海外のユニセフ現地事務所から駆けつけた日本人ユニセフ職員によって、緊急支援が始まり水や肌着類、乳児検診、教育支援、保育園や幼稚園のプレハブ園舎の提供された報告でした。



今後の“万が一”に備えて



© 日本ユニセフ協会



© 日本ユニセフ協会



Thank you

<http://www.unicef.or.jp>

「遊びを通した子どもの心のケア」「子どもにやさしい空間」

(公財)日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部心理社会的ケア・アドバイザー 本田涼子さんの講演では、災害後、できるだけ早く、できるだけ多くの様式を用いて、子どものつらい経験を処理できるように援助することが重要と話され、遊びを通した子どもの心のケアの大切さをお話されました。

「被災地のお話を聞く」

「保育園の園児に寄り添って」宮古市赤前保育園主任保育士佐々木未緒さんは、園での子どもたちの様子をお話しされました。震災後子どもたちを取り巻く変化に対応し、寄り添う姿に涙する人もいました。



参加者からは、「やはり専門家集団、団体の力はすごいと思いました」、「遊びを通して子どもたちの心を開放させることの大切さや心に寄りそってあげる接し方を学びました」など感想が寄せられました。大槌町キッズコーラスあぐどまめ&キャラホール少年少女合唱団の合唱は、「子どもたちの澄んだ歌声に心が洗われる思い」、「可愛い子どもたちの歌声で笑顔になりました」、「大変な中でも歌をこんなふうに歌うなら・・・感動しました」

また、「ユニセフ協会の活動が少し理解できました」、「ユニセフのことはわかりませんでした、今日参加して少しではありますが理解できました。微力ではありますが、かかわっていきたい」など意見も出されました。

最後に「ひよっこりひょうたん島」「ドン・ガバチョの未来を信ずる歌」をみんなで元気に歌いました。